

## 第14回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表 SD テレビ放送サービス終了と「Channel 4K」サービス開始の 時期で若干の影響も見られる結果に

多チャンネル放送研究所（所長：音 好宏）は、第14回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が（一社）衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、『2年後』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

調査時点が2014年5月で、『1年後』は2015年前半、『2年後』は2016年前半になります。調査の結果、現状や1年後の衛星放送事業者の加入者数、視聴料収入についての見通しは、前回調査（2013年11月実施）に比べ、「横ばい」との見方が中心ではあるものの、「増加」「減少」ともに数を増やして、事業者により見方が分かれていく傾向が見えます。

今回の調査の時期は、97年から多チャンネル放送を提供してきたスカパー！プレミアムにおけるMPEG-2方式のSDテレビ放送サービスが終了、また同じ124/8衛星を利用した試験放送「Channel 4K」がサービス開始するという変化の時期と重なりました。これらの影響も若干見て取れる調査結果になりました。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に調査を実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

なお、調査結果については当研究所ホームページに掲載しているので参照下さい。

→ <http://www.eiseihoso.org/labo/release.html>

# 調査結果の概要

## 1. 自社チャンネルの加入者動向については厳しい予測に

自社チャンネルの全般的な加入者動向を見ると、『現状』では、「減少」(41.6%)が最も多く、続いて、「横ばい」(39.3%)「増加」(18.0%)の順となり、「横ばい」～「減少」で約8割を占めるという、消極的な見方が大勢となった。また『1年後』についても、「横ばい」(41.6%)が最も多く、続いて「減少」(31.5%)、「増加」(24.7%)の順、さらに『2年後』も、「横ばい」(50.6%)、「減少」(27.0%)、「増加」(21.3%)と同じ順位となっている。「増加」の予測は現状～2年後まで一様に20%前後に留まっており、厳しい予測となった。

## 2. 多チャンネル放送全体についての市況感も前回同様消極的な見方

多チャンネル放送全体の加入者動向についての予測を見ると、まず『現状』においては、「横ばい」が55.1%、次に「減少」31.5%、「大幅減」2.2%を合わせた「減少傾向」が33.7%で続き、「増加」については11.2%となっている。『1年後』、『2年後』についても「横ばい」が41.6%、47.2%で最も多いが、「減少傾向」は『1年後』『2年後』いずれも40.4%と、「横ばい」に迫る結果になった。一方「増加」については『1年後』18.0%、『2年後』12.4%となり前回と比して拡大している。

## 3. 視聴料収入に対しては現状維持を見込む結果に

『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」があわせて78.7%と8割を占め、前回(13年11月調査)の81.6%とほぼ同様となった。「横ばい」は42.5%から41.6%へ、「減少」は39.1%から37.1%へとそれぞれ僅かに減少した。一方で、「増加」は18.4%から19.1%と微増も、「大幅減」が2.2%と12年11月調査以来3回ぶりに回答者が出現した。

『1年後』の予測では、「増加」が22.5%と現状よりも3.4ポイント増、「横ばい」は現状より12.3ポイント増、「減少」および「大幅減」をあわせて15.7ポイント減となった「増加」と「減少」が22.5%と同数であり、全体の傾向としては底打ち感を見せ、現状維持を見込む回答結果となった。

『2年後』の予測も、「増加」が現状と同ポイントも1年後より3.4ポイント減、「減少」および「大幅減」は現状より14.6ポイント減も1年後より1.1ポイント増と、こちらも底打ちの傾向が見えるものの、『1年後』と比べるとやや弱気であり、向こう1年に対する見通しが2年後まで持続しないと捉えている傾向がうかがえる。

## 4. 広告収入は引き続き「横ばい」もしくは「増加」との回答が多い

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「横ばい」が最も多い34.8%となっており、次いで「増加」が28.1%となっている。

『1年後』『2年後』の予測でも「横ばい」が最も多く、次いで「増加」となっているが、2つの回答を合わせると70%超を占める状態にあり、今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」と考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』『1年後』『2年後』いずれでも 19.1%あり、広告を実施していない事業者もあることにも留意されたい。

## 5. 「その他事業収入」拡大への期待が再燃傾向に

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が48.3%と最も多い。次いで「増加」が24.7%となっており、「減少」の10.1%や「無回答」の16.9%を上回っている。『1年後』『2年後』の予測でも「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」が上がっている為、その差が縮まっている。

今後の拡大への期待が再燃しているものと見られる。

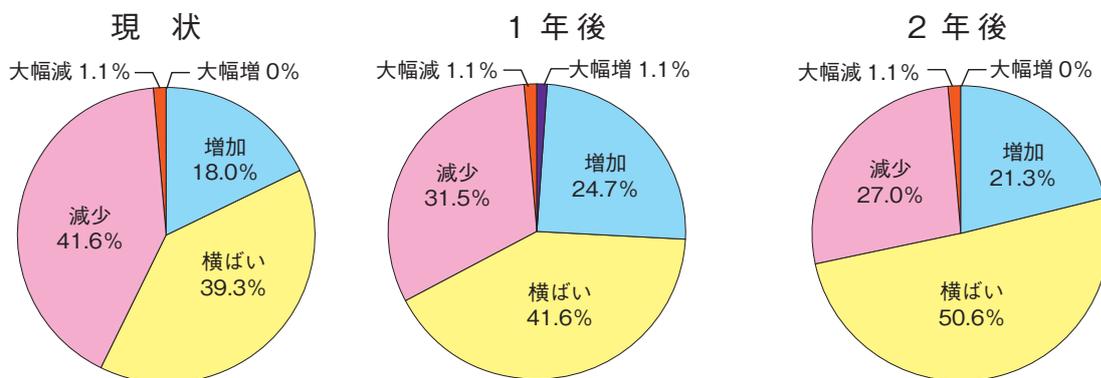
## 調査の概要について

1. 調査時期 2014年5月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（89チャンネル）
3. 調査方法 webによる回答・回収法
4. 回答回収数 89チャンネル
5. 回答回収率 100.0%

## 調査結果詳細

### 1. 自社チャンネルの加入者動向予測

まず、自社チャンネルの全般的な加入者動向を見ると、『現状』では、「減少」(41.6%)が最も多く、続いて、「横ばい」(39.3%)「増加」(18.0%)の順となり、「横ばい」～「減少」で約8割を占めるといふ、消極的な見方が大勢となった。また『1年後』についても、「横ばい」(41.6%)が最も多く、続いて「減少」(31.5%)、「増加」(24.7%)の順、さらに『2年後』も、「横ばい」(50.6%)、「減少」(27.0%)、「増加」(21.3%)と同じ順位となっている。「増加」の予測は現状～2年後まで一様に20%前後に留まっており、厳しい予測となった。



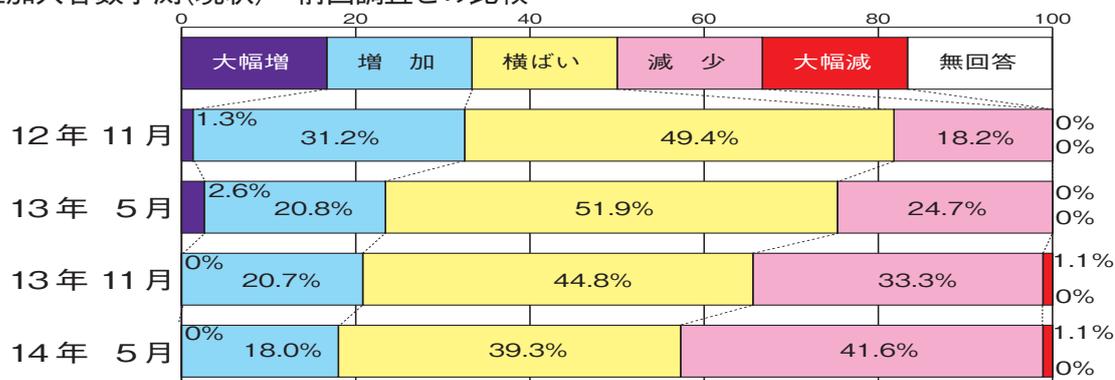
### 2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

前回調査(2013年11月)では、『現状』については、「減少」と「大幅減」を合わせた「減少傾向」が34.4%であったのに対し、今回調査では42.7%で、9.7ポイント拡大した前回に引き続き、さらに8.3ポイント拡大した。一方で、「大幅増」と「増加」を合わせた「増加傾向」が20.7%から18.0%と2.7ポイント縮小した前回調査からさらに2.7ポイント縮小、従来から最も多かった「横ばい」の回答は、前回の7.1ポイント縮小からさらに5.5ポイント縮小して39.3%となり、初めて「減少」(41.6%)が「横ばい」を上回る結果となった。前々回調査(2013年5月)との比較でこの1年の推移をみると、「増加傾向」が5.4ポイントの縮小、「減少傾向」は18.0ポイントの拡大となっており、昨今定着してきた悲観的な市場観測がさらに進んでいることが分かる。ただ、これは今回の調査実施がスカパー！プレミアムサービスのSD放送終了を目前に控えたタイミングであったことが「減少傾向」の拡大に影響している可能性がある。

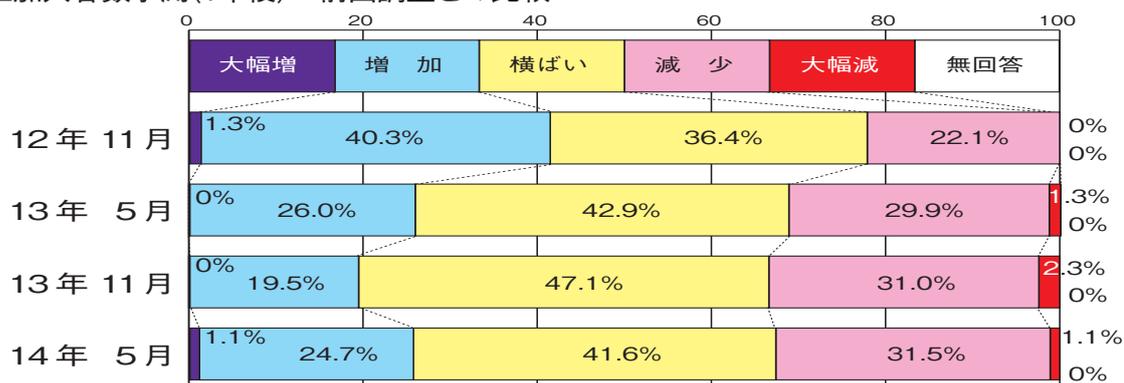
その一方で、HD移行の着地点がほぼ見えてきていたということもあってか、『1年後』については、「増加傾向」が6.3ポイント拡大して25.8%、前々回の26.0%の水準に戻っている。対して「横ばい」は、前回の47.1%から今回41.6%と5.5ポイント縮小、「減少」と「大幅減」を合わせた「減少傾向」では、前回の33.3%から、今回32.6%とわずかながら縮小しており、前回の「横ばい」の市場観測から「増加傾向」へややシフトしたことが分かる。『2年後』については、「増加傾向」は0.6ポイント、「横ばい」は2.3ポイントそ

れぞれ拡大し、「減少」と「大幅減」を合わせた「減少傾向」では、2.9ポイント縮小している。『1年後』『2年後』の前回調査との比較では多少の変動は見られるものの、前々回の調査から1年間の推移で概観すると、「増加傾向」（1年後26%/2年後20+%）、「横ばい」（1年後40+%/2年後50+%）、「減少傾向」（1年後30%+/2年後30-%）とほぼ同じような傾向を示していることが見て取れる。

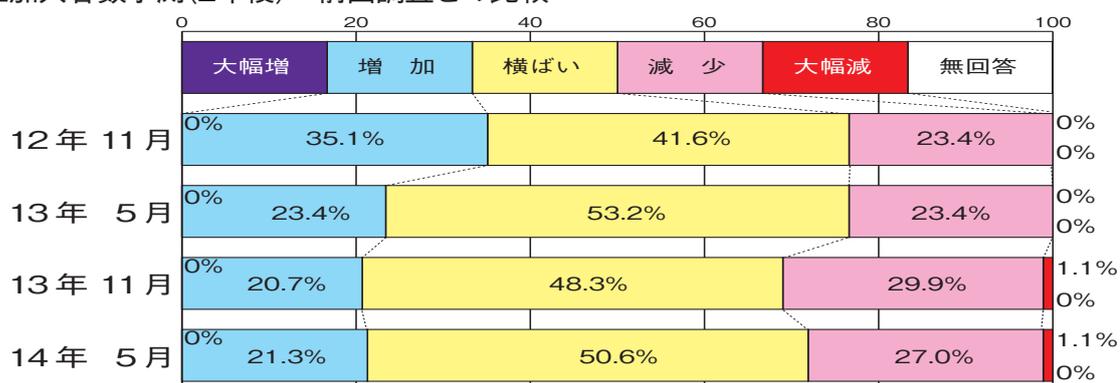
自社加入者数予測(現状)ー前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)ー前回調査との比較

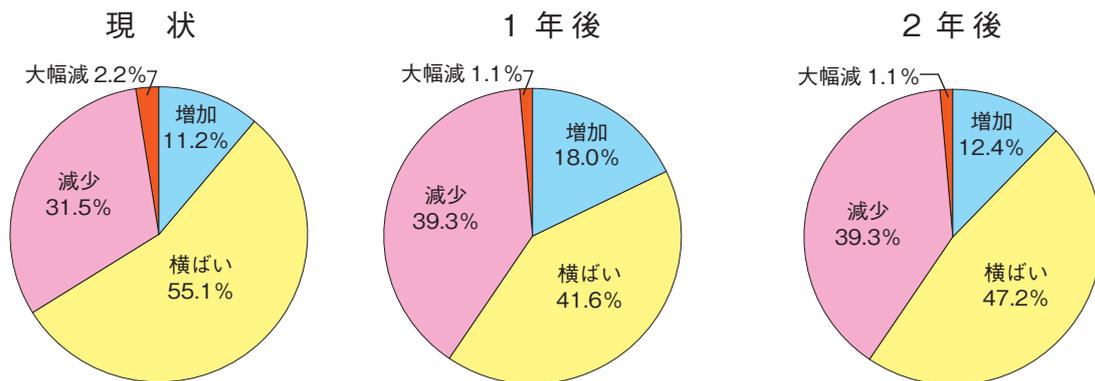


自社加入者数予測(2年後)ー前回調査との比較



### 3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

ここでは自社だけでなく、多チャンネル放送全体の加入者動向についての予測を見ていく。まず『現状』においては、「横ばい」が55.1%、次に「減少」31.5%、「大幅減」2.2%を合わせた「減少傾向」が33.7%で続き、「増加」については11.2%となっている。『1年後』、『2年後』についても「横ばい」が41.6%、47.2%で最も多いが、「減少傾向」は『1年後』、『2年後』いずれも40.4%と、「横ばい」に迫る結果になった。一方「増加」については『1年後』18.0%、『2年後』12.4%となり前回と比して拡大している。



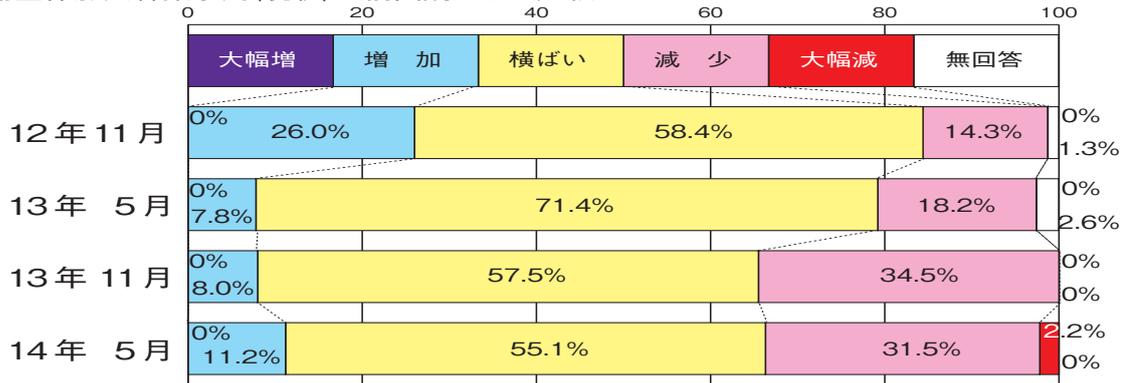
### 4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

『現状』については、「増加傾向」の回答が前々回調査（2013年5月）で急速に縮小（18.2ポイント減の7.8%）し、前回（2013年11月）は8.0%とほぼ同じ水準で推移していたが、今回調査では11.2%と3.2ポイント拡大した。「横ばい」は、前々回で71.4%と13ポイント拡大し、前回57.5%と再び13.9ポイント縮小していたが、今回調査では前回とほぼ同様の55.1%となっている。「減少」と「大幅減」を合わせた「減少傾向」でも、前回調査で34.5%と16.3ポイント拡大したが、今回は33.7%と、やはりほぼ同様の結果となっている。前回調査では、「横ばい」の縮小から「減少傾向」への拡大という傾向が示されたが、今回は「増加傾向」が3.2ポイントほど拡大し、「増加」に対する期待感が出てきているものの、全体としては前回と同様の傾向となった。

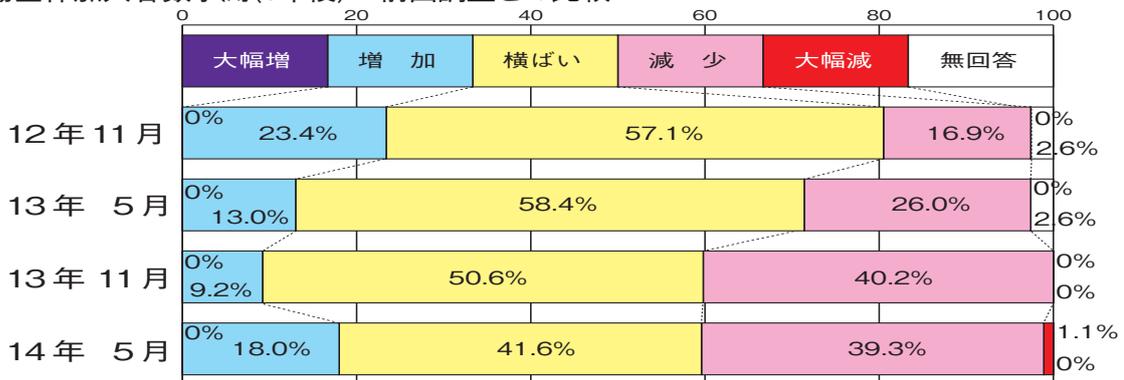
『1年後』については、「増加」が前回の9.2%から今回は18.0%とほぼ倍増、「横ばい」が前回の7.8ポイント減に続き、41.6%とさらに9ポイントの縮小、「減少傾向」については、14.2ポイント拡大した前回の40.2%とほぼ同じ40.4%という結果となった。

『2年後』についても「増加」が4.4ポイント拡大の12.4%、「横ばい」は前回の13ポイント減に続いて3.4ポイント縮小して47.2%、「減少傾向」は21.8ポイントと大きく拡大した前回の41.3%から0.9ポイント縮小の40.4%と、大きく変動のあった前回に対し、今回はいずれも小幅な動きに留まっている。全体としては、「横ばい」～「減少傾向」が多数を占める前回調査とほぼ同様の傾向だが、スカパー！プレミアムサービスのHD移行がほぼ終息したことで、自社チャンネルと同様、もしくはやや先行する形で、一部に「横ばい」から「増加」予測にシフトする市況観が見て取れる。

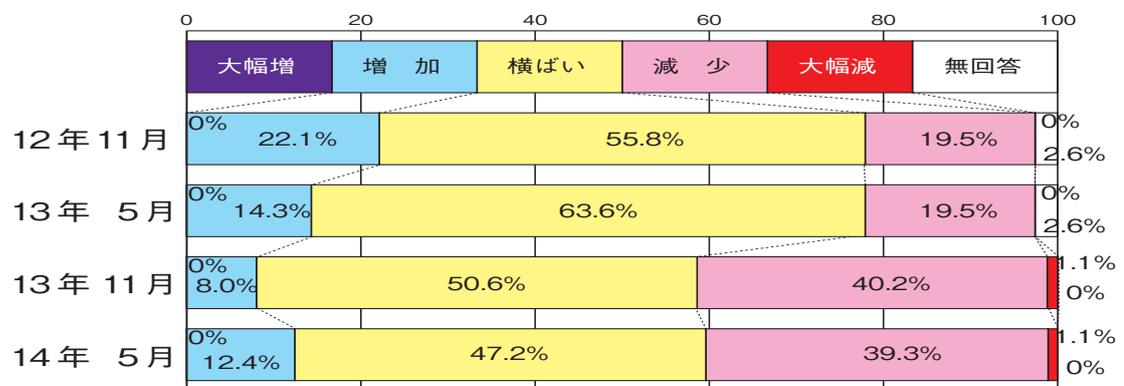
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



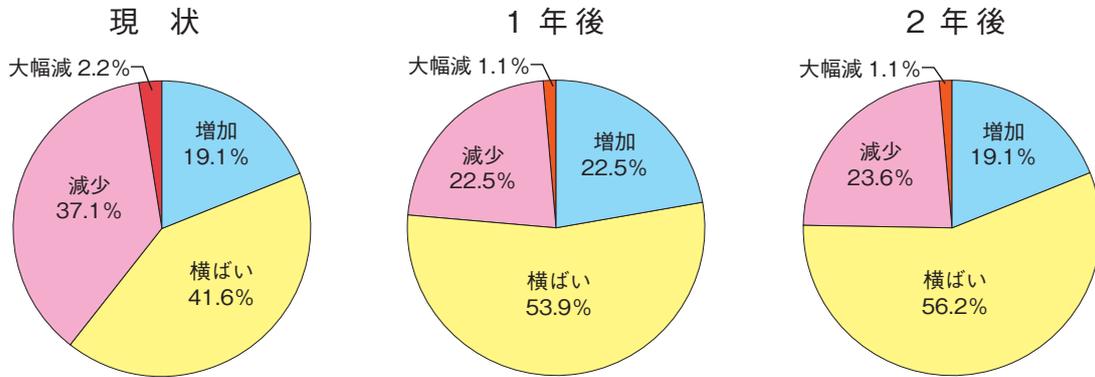
## 5. 視聴料収入予測

『現状』については、「横ばい」もしくは「減少」があわせて78.7%と8割を占め、前回(13年11月調査)の81.6%とほぼ同様となった。「横ばい」は42.5%から41.6%へ、「減少」は39.1%から37.1%へとそれぞれ僅かに減少した。一方で、「増加」は18.4%から19.1%と微増も、「大幅減」が2.2%と12年11月調査以来3回ぶりに回答者が出現した。

『1年後』の予測では、「増加」が22.5%と現状よりも3.4ポイント増、「横ばい」は現状より12.3ポイント増、「減少」および「大幅減」はあわせて15.7ポイント減となった。「増加」と「減少」が22.5%と同数であり、全体の傾向としては底打ち感を見せ、現状維持を

見込む回答結果となった。

『2年後』の予測も、「増加」が現状と同ポイントも1年後より3.4ポイント減、「減少」および「大幅減」は現状より14.6ポイント減も1年後より1.1ポイント増と、こちらも底打ちの傾向が見えるものの、『1年後』と比べるとやや弱気であり、向こう1年に対する見通しが2年後まで持続しないと捉えている傾向がうかがえる。



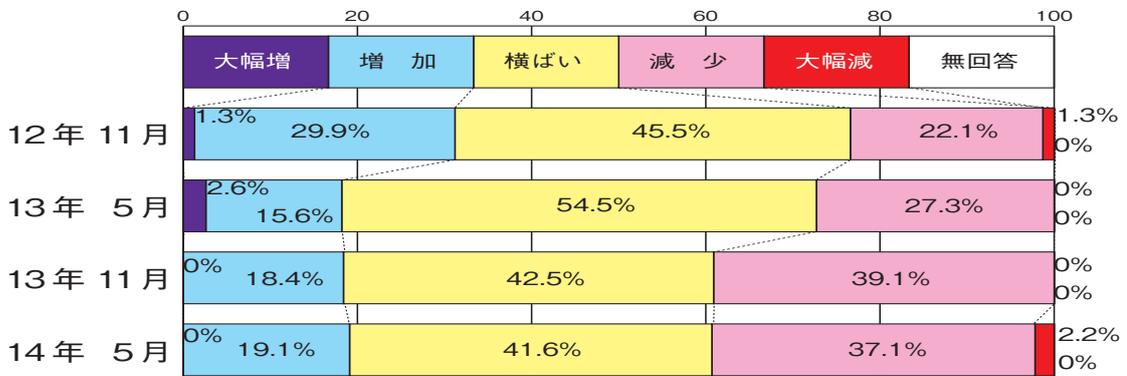
## 6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

『現状』について、前回（13年11月調査）・前々回（13年5月調査）と比較すると、「増加傾向」と答えた事業者はほぼ変わらず（18.2%→18.4%→19.1%）であり、「減少傾向」との回答も底を打ち（27.3%→39.1%→39.3%）、下げ止まりの様子が見える。

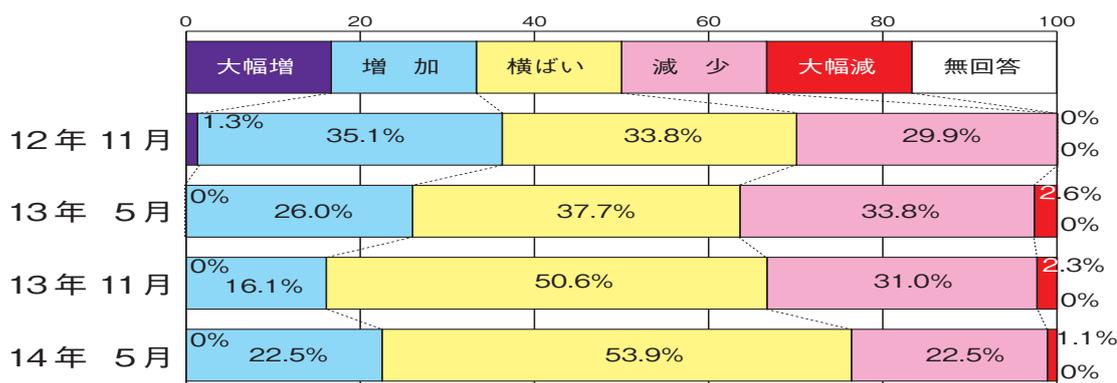
『1年後』の予測では、「増加傾向」という回答は前回から回復を見せ（26.0%→16.1%→22.5%）、「減少傾向」も大幅に減少しており（36.4%→33.3%→23.6%）、現状以上に底打ち感が現れている。

ただし『2年後』については、「増加傾向」はほぼ変わらず（24.7%→17.2%→19.1%）、「減少傾向」も大きな改善はなく（23.4%→27.6%→24.7%）、横ばい以上に回復するとまでは考えていない様子が見て取れる。

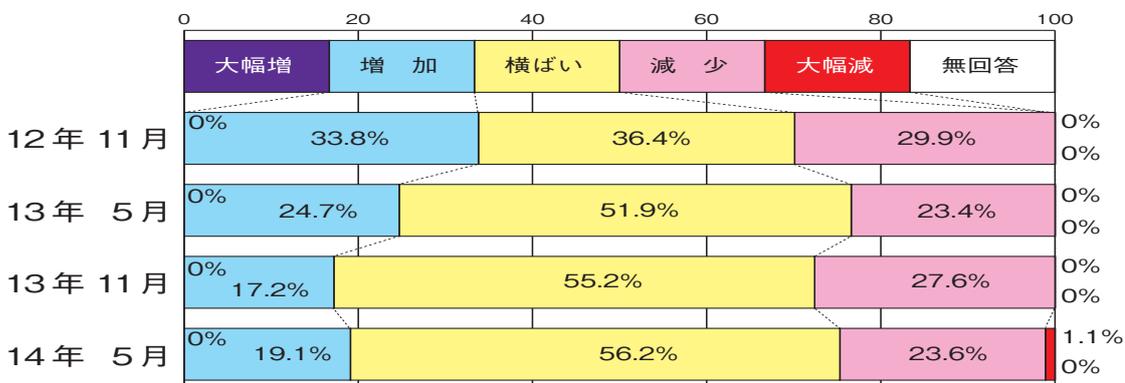
自社収入予測(現状)ー前回調査との比較



自社収入予測(1年後)ー前回調査との比較



自社収入予測(2年後)ー前回調査との比較

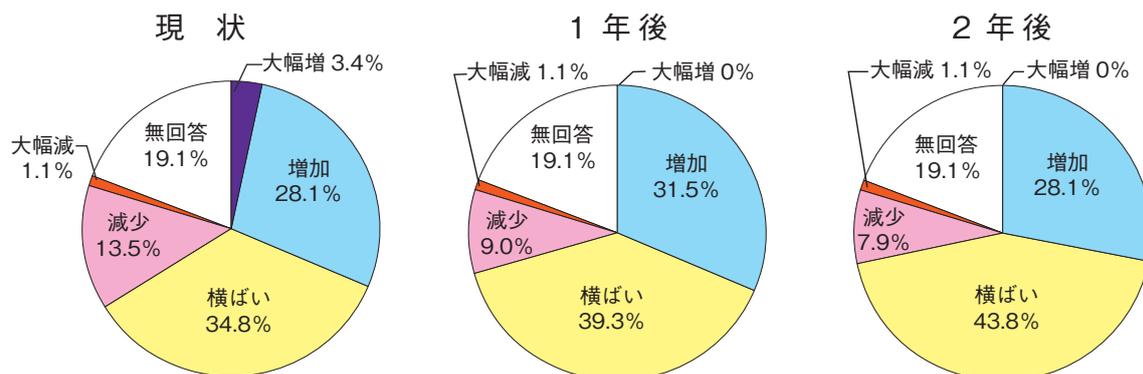


## 7. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「横ばい」が最も多い34.8%となっており、次いで「増加」が28.1%となっている。

『1年後』『2年後』の予測でも「横ばい」が最も多く、次いで「増加」となっているが、2つの回答を合わせると70%超を占める状態にあり、今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」すると考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』『1年後』『2年後』いずれでも19.1%あり、広告を実施していない事業者があることにも留意されたい。



## 8. 広告収入予測の推移

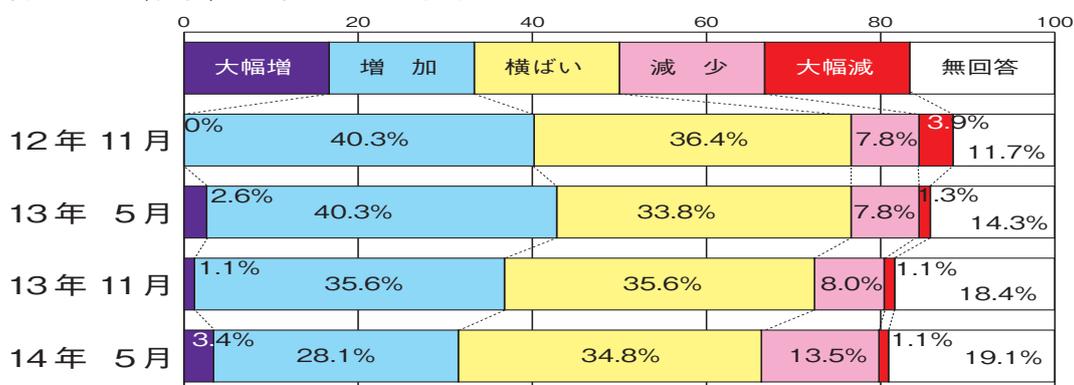
『現状』については、2013年11月実施の前回調査では「横ばい」が微増、「増加」とする回答がそれまでの40.3%から35.6%に低下した。

今回調査では「横ばい」が微減、「増加」とする回答がそれまでの35.6%から28.1%と更に低下している。「減少」も8.0%から13.5%に上がっている。

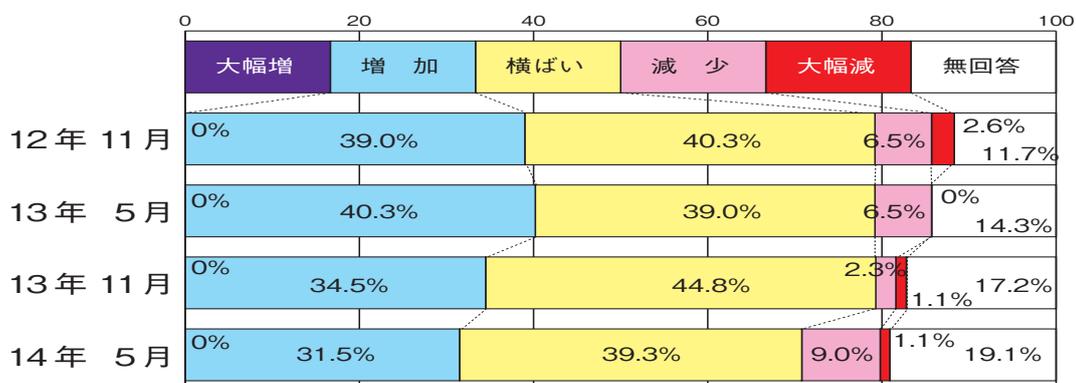
『1年後』『2年後』については、前回調査と同様、「横ばい」が最も多く、次いで「増加」が多い。

但し、「増加」が前々回から継続して下がっており、「横ばい」も前回から下がっているのに対して、「減少」が上がっており、広告収入に対する今後に向けた期待度に陰りが見られる。

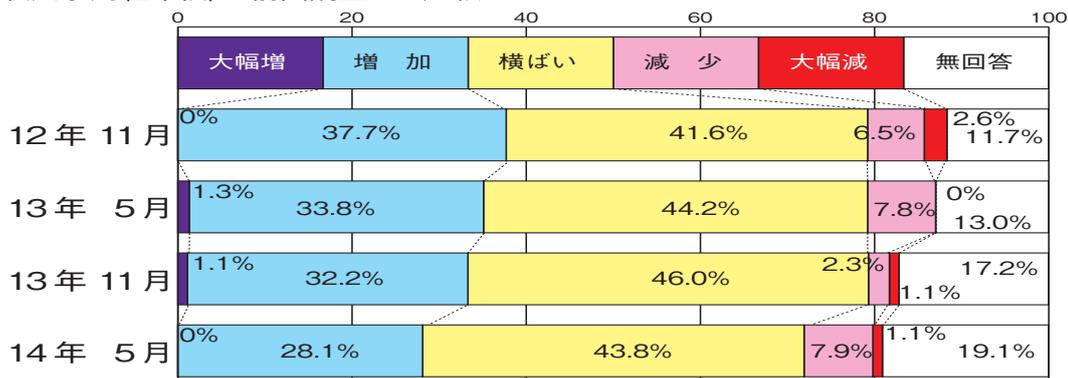
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)―前回調査との比較



広告収入予測(2年後)―前回調査との比較

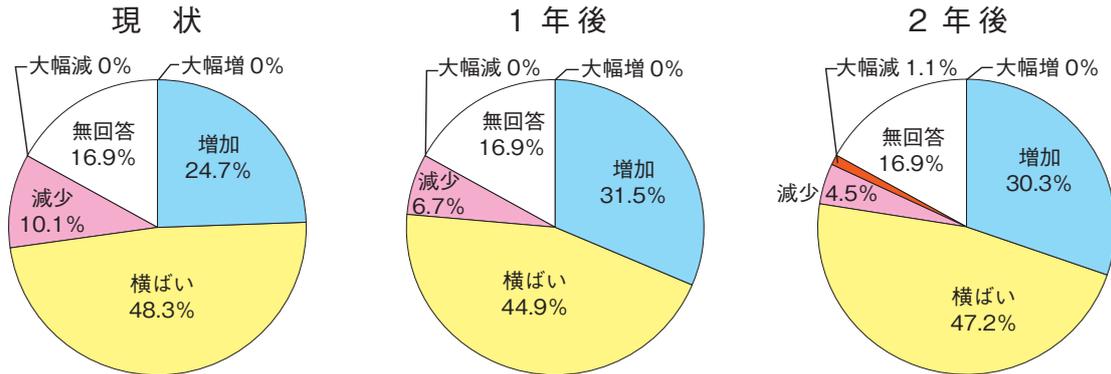


## 9. その他事業収入予測

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が48.3%と最も多い。次いで「増加」が24.7%となっており、「減少」の10.1%や「無回答」の16.9%を上回っている。

『1年後』『2年後』の予測でも「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」が上がっている為、その差が縮まっている。

今後の拡大への期待が再燃しているものと見られる。

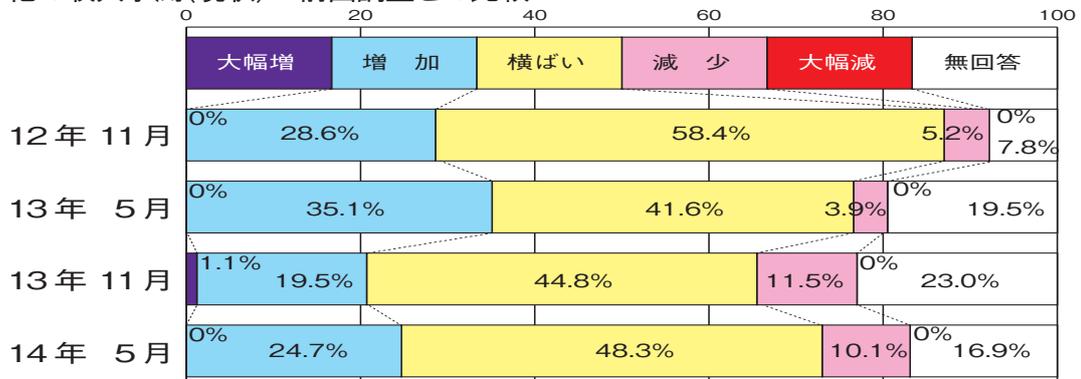


## 10. その他事業収入予測の推移

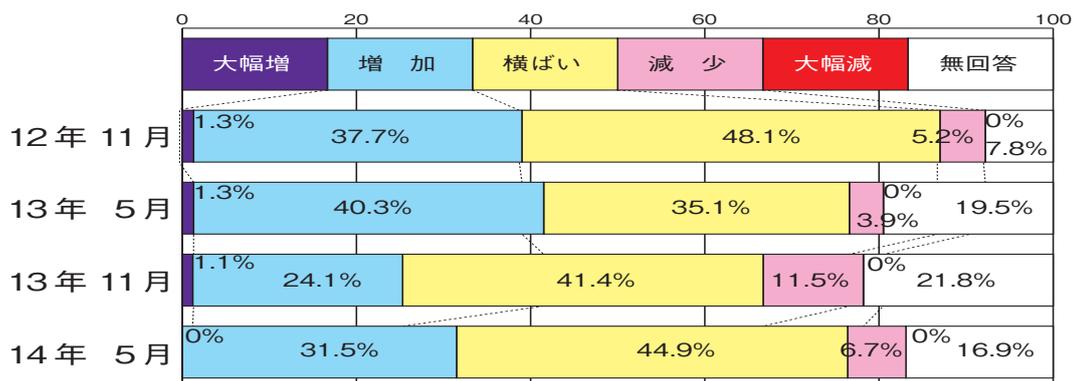
『現在』『1年後』『2年後』のいずれにおいても「増加」が上がっている。

将来に向けた、その他事業収入の拡大への期待が再燃している事業者が多いものと見られる。

その他の収入予測(現状)ー前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)―前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)―前回調査との比較

